

第2章 職業能力開発体系の課題

第2章 職業能力開発体系の課題

第1節 職業能力開発体系の現状・沿革・課題の分析

1-1 体系の現状

支援ツールを開発するにあたり、全国の機構施設を対象に実施している体系活用に関する調査等を基に体系の現状把握を行い、表2-1に示すとおり体系の整備、モデルデータ、活用、公開といった視点から整理し、作業部会の中でその対応が検討された。中でもモデルデータの活用、公開については、

- ・体系の構成を理解していないと効率的に活用ができない
- ・ファイル単体で膨大なデータ量であり、複数のファイルとシートに分かれており実際の企業・団体の体系を作成すると多くの作業量を要する
- ・業種ごとの体系を職業訓練に適用するには業種横断した職種に整理する必要がある、必要な職務・仕事・作業がどの業種のどこにあるか検索できない
- ・能力体系と訓練体系の整備が連動していない

といった現状・問題点が挙げられた。

また、現状では企業が、人事労務管理を行う社会保険労務士や人材育成・経営全般について提案を行う中小企業診断士等と連携し人材開発支援助成金の申請資料や研修プログラム等の参考とする他、機構が実施する事業主支援で活用するなど伴走支援の手段として体系が活用されることが多い。それに比べると企業が単独で体系（モデルデータ）を活用することは体系の仕組みを十分に理解していなければ扱えないため、活用に至るまでに時間を要することが上記問題点からも推察される。

これらの問題解決のため様々な対応策が検討されたが、体系の活用については実現可能性がありデジタル技術を活用してツール化することで作業の効率性等が改善されると考えられた。

表2-1 体系の現状と問題と対応

	現 状	問 題	対 応 案
体系の整備	①見直し整備は1業種/年のペース。	全業種見直し完了までに数十年を要する。	整備方針を変更する。
	②機構で実施していない業種の整備は、委員の選定が難しい。	団体に整備協力を得るまでに時間を要する。	外部委託する。
	③職業能力の体系と職業訓練の体系の整備が連動していない。	職業訓練の体系を整備する計画がない。 (現在22業種のみ)	整備方針を変更する。

(次ページへ続く)

	現 状	問 題	対 応 案
モデルデータ	①内容や表記が揺れている。 (同じ職務や仕事でも異なる内容・文言)	業種ごとに内容の細かさが違うため、異なってしまう。	仕事や作業の基礎となる共通部分は同じ表現にする。
	②様式フォーマットが新・旧で2種類ある	全ての様式を統一するには時間を要する。	整備方針を変更する。

	現 状	問 題	対 応 案
体系の活用	①様式ごとに分かれており、体系活用時の効率性が低い。	ファイル単体で膨大なデータ量であり、複数のファイルとシートで取り扱いにくい。	ツール化する。
	②実際の企業や団体の体系を作成するとかなりの作業量を要する。	必要な職務・仕事・作業がどの業種のどこにあるか探すのにかなりの時間を要する。モデルに当てはまらない事がある。	職種から選定する。 ツール化する。
	③業種ごとだと職業訓練への適用が難しい。	職業訓練は業種を横断した職種に対応しているため、必要な能力を探すのにかなりの時間を要する。	職種別の体系を整備する。
	④職業能力の体系と職業訓練の体系の整備が連動していない。	能力体系98業種に対して訓練体系は22業種のみ の整備のため。	ツール化する。 整備方針を変更する。

1-2 体系活用に関わる支援ツールの変遷

これまで機構が整備してきた体系を用いた支援ツールや、体系を取り巻く取り組み等の変遷を以下に示す。

平成11年度～ 生涯職業能力開発体系（仕事の体系、研修の体系）の整備を開始
同時期に支援ツール「Success pro. 1, 2, 3」を用いた独自体系の
作成や研修支援システムを導入（図2-1）

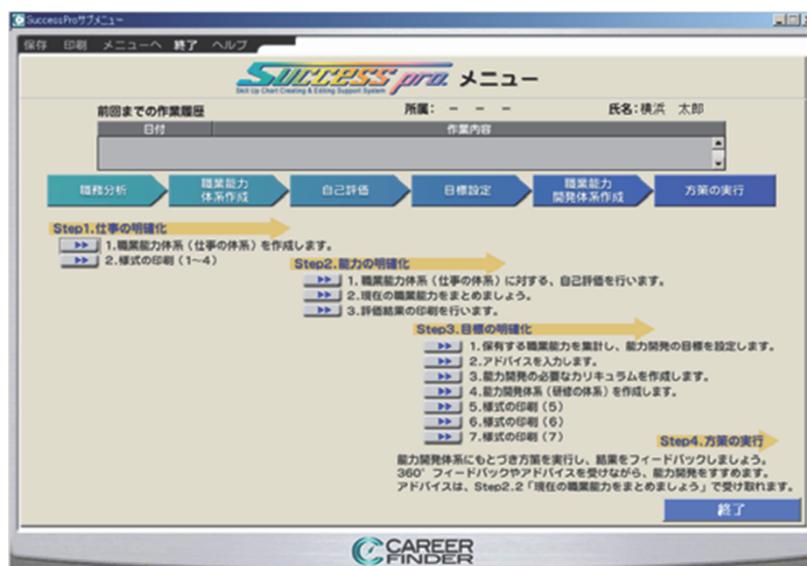


図2-1 Success proのメニュー画面

- 平成14年度～ 既存の生涯職業能力開発体系の見直し整備を開始
- 平成24年度～ 仕事の体系の様式を新様式に変更
- 平成26年3月 生涯職業能力開発体系から職業能力開発体系へ名称変更
職業能力体系（仕事の体系）は職業能力の体系へ名称変更
職業能力開発体系（研修の体系）は職業訓練の体系へ名称変更
- 令和5年度～ A I 技術を活用した人材育成支援ツールの開発に着手

1-3 体系モデルデータの分析

本調査研究1年目では、モデルデータを効果的に活用するための課題を明らかにし、かつ支援ツールから参照できるデータセットとなるよう、モデルデータの分析・整理を行った。

第1章で述べたとおり、モデルデータには、業種毎にダウンロードしなければならないこと、電子ファイル内の膨大なデータの中から利用者が職務・仕事・作業を洗い出さねばならないこと、といった課題があった。その他、委託業者からの分析結果（詳細は巻末資料4を参照）により挙げられたモデルデータに関する主な課題を以下に示す。

- ①体系のテーブルフォーマットの揺れ（不要な空行・シート、セル位置のずれ、新旧様式が混在）
- ②記載内容の表記揺れ（記号の表記揺れ（「・」、「、」など）、全角・半角、同じ意味で異なる表記など）
- ③能力体系と訓練体系の不一致（部門・職務名の不一致）

また、能力体系・訓練体系の全モデルデータを、統計的及びプログラムで扱うためのデータ変換の観点から分析した結果、データの正規化やプログラムの処理によって解決する課題の他、人手で対処するしかない課題も見つかった。

特に、表2-2に一例を示す様に、記載内容の表記揺れについては、同じ意味でも表記が異なるケースや、表現の丁寧さに揺れがあるといったケースが指摘された。体系は業種毎に内容が整理されているため、用語・表現の揺れを業種横断的に統一することは困難である。表記の揺れは支援ツール利用時に検索漏れを引き起こす可能性があることから、類義語辞書の実装や検索方法の工夫など、何らかの対応を要することが明らかとなった。

表2-2 体系内容の表記揺れ（一例：作業名は同じだが知識及び技能・技術の内容が違う）

鉄骨工事業

作業名	作業に必要な主な知識及び技能・技術
被覆アーク溶接準備	溶接棒の種類と特徴を知っている
	溶接棒の管理・再乾燥方法について知っている
	溶接順序の選定ができる
	母材面の清掃ができる
	製品の形状・構造・重量に合わせた溶接用治工具の選定ができる
	予熱する範囲の設定ができる
	予熱温度の設定ができる
エンドタブの取り付けができる	

銑鉄鋳物業

作業	作業に必要な主な知識及び技能・技術(主な動作とポイント)
被覆アーク溶接準備	被覆アーク溶接の準備ができる
	被覆アーク溶接法の特性・注意点について知っている
	施工条件とその影響について知っている
	溶接欠陥について知っている
	溶接棒の種類と特徴を知っている
	溶接棒の管理・再乾燥方法について知っている
	被覆アーク溶接機の取り扱いを知っている

データの重複、形式・表記揺れを整理していくことは、今後モデルデータの追加・更新といったメンテナンスを行う際に、作業を効率的に行い、データの不整合を防ぐためにも重要と考えられる。

将来的には、モデルデータをデータベース化し、支援ツールが参照可能な様式、従来の体系様式の両方に出力できる形式で整理することが望ましいのではないかとの意見もあった。

